

2026 年度輔仁大學日本語文學系國際學術研討會				
「遠藤周作没後30周年記念シンポジウム 一訪台40年、台湾からの発信」プログラム				
時間：2026 年 11 月 14 日（土） 場所：輔仁大学徳芳ビル会議室				
時間	第一会場	第二会場	第三会場	第四会場
08:40 – 09:00	受付			
09:00 – 09:15	【開幕式】 司会：中村祥子(輔仁大外国語学部副部長・日本語学科主任兼准教授) 日本台湾交流協会台北事務所広報文化部長 大塚めぐみ部長 輔仁大学校長 藍易振教授（代読：楊志顯副校長） 全体写真撮影			
第一 セクション 09:15 – 10:05	【基調講演1】 司会：中村祥子(輔仁大学外語学部副学部長・日本語学科主任兼准教授) 【日中同時通訳・予稿集日中原稿収録】 山根道公（ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所教授、遠藤周作学会会長） 「遠藤周作『沈黙』から『深い河』へー東洋的文化内開花のキリスト教文学ー」			
第二 セクション 10:05 – 10:55	【基調講演2】 司会：頼振南(輔仁大学日本語学科教授・元副校長) 【日中同時通訳・予稿集日中原稿収録】 金承哲（南山大学人文学部キリスト教学科、南山宗教文化研究所教授） 「遠藤周作とアジアの宗教・文学伝統」			
10:55 – 11:10	休憩			
第三 セクション 11:10 – 12:00	【基調講演3】 司会：楊錦昌(輔仁大学日本語学科教授) 【日中同時通訳・予稿集日中原稿収録】 林水福（作家・翻訳家 輔仁大學外国語学部元学部長兼教授） 「遠藤周作先生への手紙」			
第四 セクション 12:00 – 12:50	【招待講演1】 司会：林水福（作家・翻訳家 輔仁大学外国語学部元学部長兼教授） 【日中同時通訳・予稿集日中原稿収録】 加藤宗哉（作家・元「三田文学」編集長・日本近代文学研究） 「果して遠藤文学は早く来すぎたのか——『沈黙』が持つテーマと今日的な問題から」 （代読：中村祥子(輔仁大学外国語学部副学部長・日本語学科主任兼准教授)）			
12:50 – 13:40	昼食（ポスター発表）			
第五 セクション 13:40 – 15:00	①死生観とアジア 司会：林雪星（東吳大学日本語学科兼任教授）	②怪奇・崩壊 司会：沈美雲（中国文化大学日本語学科教授）	③『沈黙』論 司会：范淑文(台湾大学日本語学科兼任教授)	④日本語学 司会：林玉惠（輔仁大学日本語学科教授）
	長谷川（間瀬）恵美（桜美林大学リベラルアーツ学群人文領域宗教学プログラム准教授） 「21世紀への祈りー分断と排除の時代に	中村祥子（輔仁大学外国語学部副学部長・日本語学科主任兼准教授） 「怪奇を語る遠藤周作ー『怪奇小説集Ⅰ』『怪奇小説集Ⅱ』で見	池田静香（長崎純心大学人文学部准教授） 「『長崎』から考える遠藤周作ー『沈黙』を出版点に」 石川隆男（輔仁大學／	佐々木良（静岡大学国際連携推進機構准教授）、吳翠華（元智大学応用外国語学科准教授）、尾沼玄也（拓植大学国際学部准教授）、佐藤淳子（北海道大学教

	遠藤周作が伝える「いのちの尊厳」—— 黄翠娥（輔仁大學日本語学科兼任教授） 「遠藤周作文学における仏教的契機の可能性」 曾秋桂（淡江大學日文系教授） 「響き合う死生美学——遠藤周作『深い河』と村上春樹『街とその不確かな壁』を並置して——」	ようとしたもの」 王佑心（銘伝大学応用日本語学科主任兼准教授） 「遠藤周作『蜘蛛』を読む——内なる深淵から滲み出す怪奇」 余盼盼（中国温州大学講師） 「ログセラピーから見る遠藤周作『スキャンダル』——「老いの祈り」・〈顔〉・語りを手がかりに——」	台灣大學助理教授） 「〈沈黙〉は破綻？——『沈黙』にみる「踏むがいい」の真意——」 倪楽飛（浙江師範大学外国語学部講師） 「遠藤周作『沈黙』における語り構造と主題形成——〈沈黙〉から〈意味の再構築〉へ——」	育イノベーション機構助教） 「授業内多読における持続的黙読（SSR）の記述的検討——読み時間の推移、学習動機の維持、理解の維持を中心に——」 城戸秀則（東吳大学兼任助理教授） 「「見られる」と「見える」の指導に向けた分類——2種類の「見られる」と2種類の「見える」——」 太田榮次（輔仁大學日文系助理教授） 「中国語母語日本語学習者における名詞修飾表現の使用実態——習熟度による形式選択の変化に着目して——」
15:00 — 15:10	休息時間			
第六セクション 15:10 — 16:30	⑤作品論 主持人：黄翠娥（輔仁大学日本語学科兼任教授）	⑥戦争 主持人：阮文雅（東吳大学副主任兼准教授）	⑦映画/戯曲論 主持人：齋藤正志（中国文化大学日本語学科教授）	⑧将棋とAI・学生運動とフェミニズム 主持人：王佑心（銘伝大学応用日本語学科主任兼准教授）
	葉斐（淡江大学日本語学科教授） 「遠藤周作『真昼の悪魔』論——神を失った時代における人間の内面を中心に——」 陳文瑤（東海大学日本語文化学科准教授） 「日常生活における比較と自尊心の葛藤——遠藤周作「女の決闘」の運転教習と車の所有をめぐる——」 黄思璋（文藻大学日本語学科助理教授） 「移動と境界の物語	【招待発表】 増田 斎（日本国際研究センター研究員） 「遠藤周作『沈黙』と教会の戦争責任論——神社参拝という〈踏絵〉」 長濱拓磨（京都外国語大学教授） 「戦後文学の中の遠藤周作と梅崎春生」 葛欣怡（ノートルダム清心女子大学大学院文学研究科博士課程後期） 「前期の遠藤周作文学における実存的課題——〈近代の超克〉と	沈美雪（中国文化大学教授） 「遠藤周作『沈黙』とマーティン・スコセッシ『最後の誘惑』から『沈黙——サイレンス——』にみる信仰・裏切り・慈悲」 王思佳（立命館大学博士後期課程） 「ナショナリズムのパリエーション——1971年映画「沈黙」の裏へ——」 王嘉臨（淡江大學日文系教授） 「小説から戯曲へ——『わたしが・棄てた・	亀田俊和（致理技術学院大学兼任助理教授、立教大学講師） 「遠藤周作と将棋——現代のAIから見るその技量——」 坂元さおり（輔仁大学日本語学科教授） 「遠藤周作『ピエロの歌』における学生運動とフェミニズム——浦山桐郎映画版『私が・棄てた・女』との関連から——」

	—遠藤周作『深い河』におけるポストコロニアル的視座—」	〈神々と神と〉の交差」	女』の〈森田ミツ〉像と1970年代末の遠藤戯曲—」	
16:30 — 16:45	休息（ポスター発表）			
第七 セクション 16:45 — 17:35	【招待講演2】 司会：山根道公（ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所教授、遠藤周作学会会長） 【日中同時通訳・予稿集日中原稿収録】 李平春（韓国・明知大学元客座教授） 「日本の遠藤周作と韓国の李文烈(イムンヨル)、東洋的神探し」			
第八 セクション 17:35 — 18:25	【招待講演3】 司会：曾秋桂（淡江大学日本語学科教授） 【日中同時通訳・予稿集日中原稿収録】 頼振南（輔仁大学日本語学科教授・元副校長） 「長崎の受難記憶と殉教の語り—遠藤周作と永井隆における信仰表象の二相性—」			
閉幕式 18:25 — 18:30	【閉幕式】司会：中村祥子（輔仁大学外国語学部副学部長・日本語学科主任兼准教授） 山根道公（ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所教授、遠藤周作学会会長）			
ポスター発 表 12:50— 13:40 16:30— 16:45	【ポスター発表（大学院生）】 • 黃建偉（輔仁大學跨文化研究所翻譯學中日組修士四年生） 「『平家物語』中国語訳の言語的特徴の比較——「祇王」の段中心に」 • 湯地由子（輔仁大學日本語學科修士四年生） 「邱永漢文学における喪失と再生」 • 黃昱源（輔仁大學日本語文學系碩士四年生） 「〈殉教〉と〈棄教〉に見る時代批評——芥川龍之介と遠藤周作の比較から—」 • 陳柏任（輔仁大學日本語學科修士三年生） 「現代日本語語彙の意味変異における文脈依存的多義性」 • 彭梓綺（輔仁大學日本語學科修士二年生） 「乙女ゲームを日本語学習教材として活用する研究—『ピオフィオーレの晩鐘』を事例として」 • 王竣萱（輔仁大學日本語學科修士二年生） 「夢枕獏『陰陽師』シリーズにおける安倍晴明像」 • 許蕙安（輔仁大學日本語學科修士二年生） 「小倉百人一首の漢訳の研究——和歌の韻律と感情の再現の可能性を求めて——」 • 劉滄婧（輔仁大學日本語學科修士二年生） 「病跡学から見る伊藤計劃『虐殺器官』、『ハーモニー』—和製SFにおけるポストヒューマンと自由—」 • 黃暉晴（輔仁大學日本語學科修士二年生） 「夏目漱石『こゝろ』における恋愛感情表現—沈黙と間接的言語表現を中心に—」			

第三者アドバイザー：

第一会場：管美燕先生（台北城市科技大学教務長兼応用外国語学部教授）

第二会場：簡中昊先生（国立屏東大学応用日本語学科主任准教授）

第三会場：蔡嘉琪先生（世新大学教授）

第四会場：冨田哲先生（淡江大学日本語学科主任兼准教授）

2026 年度輔仁大學日本語文學系國際學術研討會				
「遠藤周作逝世 30 週年紀念學術論壇——訪台 40 載，從台灣發聲」議程表				
時間：2026 年 11 月 14 日（六） 場所：輔仁大學德芳大樓會議室				
時間	第一會場	第二會場	第三會場	第四會場
08:40 — 09:00	受理報名			
09:00 — 09:15	【開幕式】 主持人：中村祥子(輔仁大學外語學院副院長・日本語文學系主任兼副教授) 日本台灣交流協會台北事務所新聞文部長 大塚惠部長 輔仁大學校長 藍易振教授（代讀開幕致詞：楊志顯副校長） 合照			
第一場 09:15 — 10:05	【專題演講 1】 主持人：中村祥子(輔仁大學外語學院副院長・日本語文學系主任兼副教授) 【日中同步口譯・本預稿集同時收錄日文與中文】 山根道公（聖母清心女子大學基督教文化研究所教授、遠藤周作學會會長） 〈遠藤周作的《沉默》到《深河》——在東洋文化中綻放的基督宗教文學〉			
第二場 10:05 — 10:55	【專題演講 2】 主持人：賴振南(輔仁大學日本語文學系教授・前副校長) 【日中同步口譯・本預稿集同時收錄日文與中文】 金承哲（南山大學人文學部基督教學科、南山宗教文化研究所教授） 〈遠藤周作與亞洲宗教・文學傳統〉			
10:55 — 11:10	休息時間			
第三場 11:10 — 12:00	【專題演講 3】 主持人：楊錦昌(輔仁大學日本語文學系教授) 【日中同步口譯・本預稿集同時收錄日文與中文】 林水福（作家・翻譯家 輔仁大學外語學院前院長兼教授）：中日同時通譯 〈我與遠藤周作給遠藤周作先生的一封信〉			
第四場 12:00 — 12:50	【招待講演 1】 主持人：林水福（作家・翻譯家 輔仁大學外語學院前院長兼教授） 【日中同步口譯・本預稿集同時收錄日文與中文】 加藤宗哉（作家・前「三田文學」總編輯・日本近代文學研究） 〈遠藤文學是否遠遠走在時代之前呢？——從《沉默》的主題與當今課題談起——〉 （代讀演講稿：中村祥子(輔仁大學外語學院副院長・日本語文學系主任兼副教授)）			
12:50 — 13:40	午餐時間（壁報發表）			
第五場 13:40 — 15:00	①生死觀與亞洲 主持人：林雪星（東吳大學日文系兼任教授）	②怪奇・幽默 主持人：沈美雪（中國文化大學日文系教授）	③《沈默》論 主持人：范淑文（台灣大學日文系兼任教授）	④日本語學 主持人：林玉惠（輔仁大學日文系教授）
	長谷川（間瀬）惠美（櫻美林大學文理學群人文領域「宗教創新型學程」副教授） 〈21 世紀的祈禱——在分斷與排除的時代遠藤周作所傳達的「生命尊嚴」〉	中村祥子（輔仁大學外語學院副院長・日本語文學系主任兼副教授） 〈敘述怪奇的遠藤周作——論《怪奇小說集 I》《怪奇小說集 II》所欲凝視之內涵〉	池田靜香（長崎純心大學人文學部副教授） 〈從「長崎」論遠藤周作——以《沉默》為出發點〉 石川隆男（輔仁大學／台灣大學助理教授）	佐々木良（靜岡大學國際連携推進機構副教授）、吳翠華（元智大學應用外語學系副教授）、尾沼玄也（拓植大學國際學部副教授）、佐藤淳子（北海道大學教育創新機構助教）

	黃翠娥（輔仁大學日文系兼任教授） 〈遠藤周作文學中的佛教契機可能性〉 曾秋桂（淡江大學日文系教授） 〈並列遠藤周作《深河》與村上春樹《城市與不確定的牆》觀之其間共鳴的生死美學〉	王佑心（銘傳大學應用日語系系主任兼副教授） 〈「解讀遠藤周作〈蜘蛛〉—從內心深淵滲出的怪奇〉 余盼盼（中國溫州大學講師） 〈意義療法視野下的遠藤周作《醜聞》——以「老年的祈禱」〈面容〉與敘事為線索〉	「〈沉默〉是破綻？——《沉默》中「可以踩上去」的真正意義」 倪樂飛（浙江師範大學外國語學院講師） 〈遠藤周作《沉默》的敘事結構與主題構建——從「沉默」到「意義的重構」〉	〈課堂內多讀中持續靜默閱讀（SSR）之描述性考察-以閱讀時間推移，學習動機維持與理解維持為中心-〉 城戸秀則（東吳大學兼任助理教授） 〈「見られる」與「見える」之教學分類-兩種「見られる」與兩種「見える」-〉 太田榮次（輔仁大學日文系助理教授） 〈中文母語日語學習者名詞修飾表現的使用實態〉
15:00 — 15:10	休息時間			
第六場 15:10 — 16:30	⑤作品論 主持人：黃翠娥（輔仁大學日文系兼任教授）	⑥戰爭 主持人：阮文雅（東吳大學副主任兼副教授）	⑦電影/戲劇論 主持人：齋藤正志（中國文化大學日文系教授）	⑧將棋與AI/學運與女性主義 主持人：王佑心（銘傳大學應用日語系系主任兼副教授）
	葉菱（淡江大學日文系教授） 〈遠藤周作《白晝的惡魔》論——以失去神的時代中人的內心為中心〉 陳文瑤（東海大學日本語言文化學系副教授） 〈日常生活中的比較與自尊心葛藤——論遠藤周作〈女の決闘〉中的駕駛學習與汽車持有——〉 黃思瑋（文藻大學日本語系助理教授） 〈遷移與邊界的敘事——遠藤周作《深河》中的後殖民視角〉	【招待發表】 增田 齋（日本國際研究中心研究員） 〈遠藤周作《沈默》與教會的戰爭責任論——名為神社參拜的〈踏繪〉——〉 長濱拓磨（京都外國語大學教授） 〈戰後文學中的遠藤周作與梅崎春生〉 葛欣怡（聖母清心女子大學博士課程後期） 〈遠藤周作前期文學中的實存課題「近代的超越」與「眾神與神」的交會——〉	沈美雪（中國文化大學教授） 〈二部電影《沈默》：1971 年版與 2016 年版之電影表現與倫理再現的比較研究〉 王思佳（立命館大學博士後期課程） 〈國家主義的變奏——1971 電影《沉默》的背後〉 王嘉臨（淡江大學日文系教授） 〈從小說到戲曲——《我・拋棄了的・女人》之〈森田光〉形象與1970 年代末遠藤周作的戲曲創作〉	龜田俊和（致理技術學院大學兼任助理教授、立教大學講師） 〈遠藤周作的將棋——從現代 AI 視角看與北杜夫對局——〉 坂元小織（輔仁大學日文系教授） 〈遠藤周作《小丑之歌》中的學生運動與婦女解放運動——從與浦山桐郎電影版《我所拋棄的女人》之關聯性出發〉
16:30 — 16:45	休息時間（壁報發表）			

第七場 16:45 – 17:35	【招待講演 2】 主持人： 山根道公（聖母清心女子大學基督教文化研究所教授、遠藤周作學會會長） 【日中同步口譯・本預稿集同時收錄日文與中文】 李平春（韓國・明知大學前客座教授） 〈日本的遠藤周作與韓國的李文烈：東洋的尋神之路〉
第八場 17:35 – 18:25	【招待講演 3】 主持人： 曾秋桂（淡江大學日文系教授） 【日中同步口譯・本預稿集同時收錄日文與中文】 賴振南（輔仁大學日本語文學系教授・前副校長） 〈長崎的受難記憶與殉教敘事——遠藤周作與永井隆信仰表象二相性——〉
閉幕式 18:25 – 18:30	【閉幕式】主持人： 中村祥子（輔仁大學外語學院副院長・日本語文學系主任兼副教授） 致詞： 山根道公（聖母清心女子大學基督教文化研究所教授、遠藤周作學會會長）
壁報發表 12:50 – 13:40 16:30 – 16:45	【壁報發表（研究生）】 • 黃建偉（輔仁大學跨文化研究所翻譯學中日組碩士四年生） 〈《平家物語》中譯本語言特徵的初步比較：以〈祇王〉篇為例〉 • 湯地由子（輔仁大學日本語文學系碩士四年生） 〈邱永漢文學中的喪失與再生〉 • 黃昱源（輔仁大學日本語文學系碩士四年生） 〈〈殉教〉與〈棄教〉中的時代批評—芥川龍之介與遠藤周作之比較—〉 • 陳柏任（輔仁大學日本語文學系碩士三年生） 〈現代日語語義變異中的語境依存型多義性——以禮貌與正式語彙為中心〉 • 彭梓綺（輔仁大學日本語文學系碩士二年生） 〈乙女遊戲作為日語學習素材之研究——以《虔誠之花的晚鐘》為例〉 • 王竣萱（輔仁大學日本語文學系碩士二年生） 〈夢枕貳《陰陽師》系列中的安倍晴明像〉 • 許蕙安（輔仁大學日本語文學系碩士二年生） 〈小倉百人一首的漢譯研究——如何重現和歌之韻律與感情的可能性——〉 • 劉涓靖（輔仁大學日本語文學系碩士二年生） 「從病跡學看伊藤計劃《虐殺器官》、《和諧》—和制 SF 中的後人類與自由—」 • 黃曄晴（輔仁大學日本語文學系碩士二年生） 〈夏目漱石《心》中的戀愛情感表現—以沉默與間接語言表現為中心—〉

第三方顧問：

第一會場：管美燕老師（台北城市科技大學學務長兼應用外語系教授）

第二會場：簡中昊老師（國立屏東大學應用日語學系主任副教授）

第三會場：蔡嘉琪老師（世新大學教授）

第四會場：富田哲老師（淡江大學日文系主任兼副教授）